



## 「我が家がいい」89歳 一人暮らしの K氏の必死の覚悟

Kさん、89歳は 腰椎圧迫骨折、慢性呼吸不全心筋梗塞等で昨年から入院生活9ヶ月。病状が落ち着き、自宅で生活したいと退院してくる。在宅酸素療法中で一人暮らし、更に下肢筋力の低下がみられ、転倒しやすい。

退院後は娘が泊まり、小規模多機能居宅サービスと入院先の病院からの医療保険による特別指示書にて訪問看護師が関わった。

2週間が過ぎると看護小規模多機能型居宅サービスへ移行となった。

病院の看護師からは家に帰っても、またすぐに入院するようになる。本人が自宅で生活できないことを自覚してもらうために一時退院させたようだ。



Kさん宅へ訪問すると、家の中は広くつかまるスペースも少ない。在宅酸素の長い管を着けてトイレまで行くのもやっと…。

いつ転んでもおかしくない状況である。そして一人暮らしの為、急変や転倒して自ら救急車が呼べるだろうか…？

半ば、断るつもりで会って話をした。

Kさんは「9ヶ月間の入院生活はとても辛かった。一人暮らしでも我が家がいい。みんなに迷惑を掛けるけど、自分で建てた我が家で死にたい。緊急通報システムなんて入れられ、訳の分からない病院に運ばれて、死ぬなかったら困る。すべて覚悟して帰ってきた」と…。潔い Kさんに反論する言葉がなかった。

そして、看護小規模多機能型居宅介護「ケアホーム希望」の利用が始まった。1日に2回、訪問看護にて病状のチェック、服薬確認、排泄状況をみながらポータブルトイレの掃除。

食事は昼と夕に配食サービスを利用し、安否確認もしてもらっている。転ばないように手すりも取り付け。いつでも医者に来てもらえるようにと訪問診療を導入し、薬の管理は薬剤師に自宅へ訪問してもらい、薬の飲み忘れをしないように薬カレンダーを配置した。

娘は、週に2回 家事を手伝いに来てくれる。近所の人たちにも退院したことを伝え、見守りしてくれるようお願いした。体調が良ければケアホーム希望の「通い」サービスを利用し、入浴やリハビリなどを行う。早期に病状変化や転倒に気づき、臨機応変に対応ができるようサービスを組み合わせた。

退院してまもなく1ヶ月半が経つが、今や自分で出来ることは自分で行き、洗濯物をたたんだり、米をとぎ、ご飯を炊いて自分好みのちょっとした料理は作っている。

配食サービスの味には飽きてきたらしい…

**主体的に生きることは、危険と隣り合わせである。だからと言って何もしないでじっとして生きている人はいないだろう。**

一度きりの人生、どんなに頑張っても「死」を迎えることはわかっている。

覚悟を決めながら人生を様々な生きているKさんに「ファイト！」と、応援したくなる…。



今年も参加してできました！

緑ヶ丘一丁目 自治会の秋祭り

沖縄 民謡 エイサー

サイコー！



みんなと参加できてサイコー

家に帰ってきてサイコー

元気なばあちゃんたちだなあ〜…

ビンゴゲームで一等賞ですよ



沖縄エイサーを踊ったり、ビンゴゲームで沢山商品を得たりと今年も大盛り上がりの秋祭りでした！

えっ?! ほんと? ありがとう!

HAPPY BIRTHDAY

10月の誕生日会 ♪♪ Happy birthday to you ♪♪



18歳年下の奥さん 大事にするんだよ!

祝

87歳

87歳



A子さん バースデーソング 上手ね〜!

これからも元気に頑張ります!